

《担当者名》野川道子（非） [mnogawa@hoku-iryu-u.ac.jp]

【概要】

慢性病の特徴や療養法により多様に変化する健康レベルに応じた支援方法、意思決定支援について学ぶ。また、慢性病者のセルフマネジメントプログラムを学び、実践事例を通してその効果と課題を検討する

【学修目標】

1. 地域で生活する療養者に対する薬物療法と高度実践看護師の役割について理解できる
2. 安全な薬物療法促進のために、在宅で活用できる制度や多職種連携について理解できる
3. 地域で生活する療養者への効果的かつ安全な薬物療法促進するために基礎薬理学が理解できる
4. 在宅での輸液療法や疼痛コントロールのプロセスと実際を理解できる
5. 地域で生活する療養者がよく体験する症状の緩和やコントロールに関する薬物療法を理解できる
6. 安全かつ効果的な薬物療法による症状マネジメント及びアドヒアランスを促進する支援を事例から考察する

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	慢性病診断初期の専門的看護支援方法	・慢性病者の健康レベルと療養上の課題 ・慢性病診断初期の療養者と家族の特徴 ・慢性病診断初期の事例を用いた具体的支援方法の検討	野川
3) 4	慢性病急性増悪期の専門的看護支援方法	・慢性病急性増悪期の療養者と家族の特徴 ・慢性病急性増悪期の事例を用いた具体的支援方法の検討	野川
5) 6	慢性病回復期・リハビリテーション期の専門的看護支援方法	・慢性病回復期・リハビリテーション期の療養者と家族の特徴 ・慢性病回復期・リハビリテーション期の事例を用いた具体的支援方法の検討	野川
7) 8	慢性病ターミナル期の専門的看護支援方法	・慢性病ターミナル期の療養者と家族の特徴 ・慢性病ターミナル期の事例を用いた具体的支援方法の検討	野川
9) 10	慢性病の健康レベルに応じた緩和ケア	・緩和ケアの概念 ・非がん療養者の健康レベルに応じた緩和ケアの検討 ・非がん療養者の事例を用いた緩和ケアの具体的支援方法の検討	野川
11) 12	治療や療養法に関する選択と意思決定支援	・意思決定プロセス ・倫理的視点からの療養者と家族の意思決定支援やアドボカシーの検討 ・難病療養者の事例を用いた意思決定の具体的支援方法の検討	野川
13) 15	慢性病者のセルフマネジメントに関する支援方法	・病と生きる慢性病者のセルフマネジメント力を高める支援の実際 ・「慢性疾患セルフマネジメントプログラム」の実践事例を用いた効果と課題の検討	野川

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション30%、準備・参加状況30%、課題レポート40%による評価。

【教科書】

黒江ゆりこ編：新体系 看護学全書 経過別成人看護学 慢性期看護，メヂカルフレンド社，2017

【参考書】

ケイト・ローリング他、近藤房江訳：病気とともに生きる 慢性疾患のセルフマネジメント、日本看護協会出版会、2008.
その他、適宜指定する。

【学修の準備】

課題に沿って予習をして授業に臨むこと。

【学習方法】

教員が提示する慢性病者の事例や臨床での受持患者事例及び実践例を題材にして、慢性病を持つ人の健康レベルに応じた支援を検討する．事例検討と討議を組み合わせながら学習を進める。